

交渉情報	NO.50	日本郵便信越支社 郵便・物流オペレーション部
JP労組信越地方本部	2018年10月25日	添付資料:103枚

2018年度りんごゆうパック運送計画について

日本郵便（株）信越支社郵便・物流オペレーション部は、本日（10月25日）「2018年度りんごゆうパック運送計画」について地方本部に説明してきました。

標記概要は、長野県各地域における「りんごゆうパック」の取扱物数増加に対応するため、臨時運送施設を設定し、円滑かつ効率的な運送を確保するものです。

今年度については、分室を8ヶ所、集積所を9ヶ所開設し各地域の対処にあたりとじています、分室および集積所については支社資料別紙1を参照願います。

別紙2では、年末期差立（りんご）オペレーション作業内容を示しており「1 地域区分拠点（分室）の設置、2 集積所等へのゆうパック集約、3 集積所等における事前区分と輸送、4 運送便の設定と役割、5 運送便に関する遵守事項、6 安全管理の徹底、7 その他」について記載されています、また38・39地域とも同様な内容です。

別紙3では、「地域区分拠点（分室）の設置」に伴う「りんごゆうパック差立オペレーション計画」が38・39地域ごとフローで示されています。

別紙4（支社資料②）では、各分室の輸送容器作成方が示されています。

運送便については支社資料③を参照願います。なお、ピークがずれた場合は分室の開設期間、運送便の延長もあり得るとしてしています。

地本では、予定取扱物数を質したところ昨年並みの111万個（対前年比99・0%）としてしています。

管外差立については昨年と同様に、概ね16時30分頃までに集荷した「りんごゆうパック」については、当日の運送便で差立てることとし、それ以降のものは、翌日の臨時便若しくは上一号便で差立てる計画となっています。

なお、例年問題となりますパレット（輸送容器）についてはL型ボックスパレットを新規に約10,000台を増備し対応をはかるとしてしています。また発着管理システムにより管内・管外から必要な回送の徹底をはかっていくとじています。

【労使対応】 当該局における単局窓口